

◆ うらはらなくら

～重要伝統的建造物群保存地区に建つ

蔵の修理に関わって～

何左 昌範

2014年夏から2016年秋まで設計者として関わった、奈良県橿原市今井町に建つ蔵の修理について紹介します。

かねてより倒壊の危険性などが指摘されていたこの建物は、伝統的建造物に選定されていたため取り壊せず、修理保存する必要があります。満身創痍のこの建物は柱に傾きや変形がみられ、建物の倒壊を防ぐために突っ張り棒などが設置されていたほか、下屋部分は増築であることなどがわかりました。

設計時には構造設計事務所と工務店の協力を得て、行政との協議を重ねながら、①倒壊危険性の解消、②構造的な自立と耐震補強、③外観の復原を工事の目的としました。

建物の基礎は伝統的な東石建てからべた基礎に変更。変形した古材柱は建物を支えられない一方、文化財保存の観点から取り除けないため、その内側に新たな柱・梁を設けました。構造材として土壁の要素を残したかったものの経済性などの理由から断念し、構造用合板を採用しました。結果、この蔵は伝統的な構造から、近年の木造住宅に多くみられる構造に代替されました。こういう修理で本当に良いのかと一時期の私は悩みましたが、関係者が折り合いをつけて辿り着いたこの修理方法で良かったと今は思っています。

設計段階では建物の借り手も活用方法も未定だったため、『スケルトン・インフィル[※]』の考え方を採用しました。また、外壁について、道路に面した補助金交付対象部分は伝統的な下地と仕上げにする必要がありました。その他の部分は安価で簡易な下地・仕上げとすることも可能でしたが、お施主様の心意気で、仕上げについては補助金対象部分と合わせることになりました。

そして工事中のある日、この蔵を飲食店として利用を希望する人が現れます。対話を重ねる中で、『伝統を感じさせる凛とした雰囲気の中に併せ持つ、親しみやすいカジュアルさ』が内部設計のコンセプトになりました。果たしてこの蔵は1階に6席のカウンター、2階に4人掛けテーブルを3つ備える日本料理店として新たな歴史を刻み始めました。これからも愛され続ける建物であることを願っています。



全体的に傾いている蔵



鋼板で被覆された使用済み電柱で支持



古材柱の内側に設けられた新たな柱・梁



補助金対象部分(左)は竹木舞

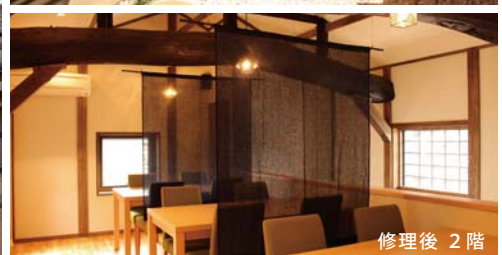
※建物の構造体等(スケルトン)と建物の内装や内部設備配管等(インフィル)を明確に分け、利用方法等によって建物内部を容易に改修できるよう計画された建物。



修理後 外観



修理後 玄関前



修理後 2階



「ユネスコ」と聞いて『世界遺産』を連想された方は、随分いらっしゃるのではないのでしょうか。『世界遺産』には【文化遺産】【自然遺産】【複合遺産】の3種類があり、建築物など**有形**の文化財の保護と継承を目的としています。それに対し『無形文化遺産』は、前者ほど認知されていないと感じます。簡単に説明しますと、民俗文化財、フォークロア(古く伝わる風習・伝承など)、口承伝統などの**無形**のものを対象とし、まさに“生きた遺産”といえるのです。国内に於いては、和食(暮らし)、京都祇園祭の山鉾行事(祭り)、歌舞伎(舞台芸能)などが認定されています。

実は、今回のテーマである**伝統構法**も認定を受けようとする動きがあります。「伝統木造技術文化遺産準備会」が運動を推進しており、主旨に賛同する伝統木造関係者・文化人・有識者が呼びかけ、多くの個人・企業・団体も参加し、2015年本格的に活動を開始しました。

日本建築の美しい町並みや、原風景を形づくる社寺・数寄屋・民家・町屋などは、大工・屋根葺師・左官・建具・畳・襖・彫り・鏝(かざり)など、連綿と伝えられてきた職人技術により造られています。日本人の暮らしや文化を支えてきた基盤技術こそ、**伝統構法**なのです!しかし、日本人の生活様式や価値観の変化、効率至上主義の結果でしょうか、“乾いた町並み”への移り変わりは止まる気配はなく、未来への継承は決して易しいものではありません。では私たちに出来ることはあるのでしょうか?

伝統構法が『無形文化遺産』に登録されれば、国内に留まらず海外からの関心は高まり、価値が見直され建築業界の機運も盛り上がるのではないのでしょうか。「伝統木造技術文化遺産準備会」では、広報活動やPRイベントの開催、国やユネスコに働きかけるための署名活動なども行っています。

私自身、建築士の立場でヘリテージマネージャー(地域の歴史的建造物の専門家)として保全活用に携わる機会も増えつつありますが、いつか本格的な**伝統構法**で新築の設計をしたい!と夢を膨らませています。皆さんも身近にある、伝統建築の可能性を感じていただき、**伝統構法**の『無形文化遺産』登録に向けて応援いただきたいと思います!

伝統木造技術文化遺産準備会: <http://dentoh-isan.jp/>

※伝統的建築の保全活用をお考えの方は、ヘリテージマネージャーにご相談ください。



イメージ写真は承諾を得てHPより引用させていただいています

◆ 編集後記

時間の流れを乗り越えてきた建築やそれを支える技術には確かな普遍性が内在しています。古いものの中に常に新しい価値を見だし続けること、そしてその物語を持続させ次の時代に受け渡していくこと。これは非常に大切なことですね。

ただの懐古思想や押し寄せる新陳代謝の圧力に負けることなく常に感性を研ぎ澄まして「古くても良いモノは良い!」と見極めることが、情感豊かな生活を創って行く上で必須の能力となりつつあるのかもしれない。(坂本 雅之)

◆ 編集メンバー

井戸田 精一	SDIイダタセイイチアトリエ
米田 巧	TAKUMI建築設計室
坂本 雅之	建築設計事務所アニコ
辻 祐司	辻 建築設計室
何左 昌範	ささりな計画工房
橋爪 恒平	atelier nest-アトリエネスト-
松村 泰徳	松村泰徳建築設計事務所
森本 晃尚	SDIイダタセイイチアトリエ

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局/
SDIイダタセイイチアトリエ
東大阪市吉田本町3丁目5-12-1004
TEL : 072-951-4668

奈良事務局/松村泰徳建築設計事務所
奈良県葛城市北花内261-5
松村ビル 2 F - W E S T
TEL : 0745-69-5938

URL: <https://www.facebook.com/groups/25614507753600/>

Copy right 2010-2017 Architect Caravan All rights reserved

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。新築・リフォームに限らず住まい全般のご相談等御座いましたら、遠慮なく左記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。